



第3回 IUCN 世界自然保護会議に参加して

奥富 清 (自然保護助成基金理事長)

2004年11月17日～25日の9日間、バンコクにおいて第3回 IUCN 世界自然保護会議(WCC)が開催され、その前半の18日～20日に開かれた、会議のハイライトともいえる世界自然保護フォーラムを中心に参加しました。今回私は、IUCNの保護地域委員会(WCPA)のメンバーとしてではなく、今会議のパートナーとしての参加でした。それは、当基金がIUCNの要請に応じて今会議のために寄付し、会議の共同スポンサーの一員となったことによります。

フォーラムは巨大なシリキット王妃ナショナル・コンベンション・センターで開かれ、世界各国からの6000人も参加者、300にも達する会合、国・NGO・企業等による見切れないほど多数の展示ブース等があつて、まったくの一大イベントでした。前日の17日夕に開かれた大ホール満席の開会式には、タイのシリキット王妃や日本の高円宮妃のご臨席もありました。会議を誘致したタイ国政府も自然資源・環境省を中心に会議の成功に向けて力を注ぎ、「IUCN」の文字入りの記念硬貨(10パーツ)を発行したほどです。(4頁に図柄を掲載)

フォーラムのテーマは、「生物多様性の喪失と種の絶滅」「生態系管理」「健康・貧困と自然資源保全」および「市場・ビジネスと環境」がその4大テーマでした。この4大テーマを軸に、IUCN本部・NGOあるいは国機関などによって企画された多様なテーマ、規模、形式(ワークショップ、講演会、円卓討論会など)の会合が開かれ、それぞれにおいて発表、意見開陳、討論などが活発に行われました。日本自然保護協会等によるアジア・太平洋ジュゴン保護ネットワークについての会合も初日18日の昼に開かれております。

当自然保護助成基金がIUCN本部を通じてスポンサーとなった会合は、いずれもアフリカのウガンダ、ジンバブエおよび南アフリカの三つのワークショップでした。このうち、ウガンダは同国の水・土地・環境省企画の「ウガンダにおける住民の収入・生計に対する湿地生態系多様性の貢献」、またジンバブエはSAFIRE(Southern Alliance for Indigenous Resources)企画の「森林生産物の共同体ベースの商業化」というテーマのワークショップでした。これらのワークショップに共通していることは、共同体や住民の生計を支えている自然資源の利用とその保全の関心に視点を当てていることだと思います。本フォーラムの諸会合のテーマは実に多種多様で全世界のあらゆる自然保護の課題を網羅している観さえありますが、これら二つのワークショップから、先進諸国ではほとんど問題にされていない住民の生活向上と自然保護の関係が、発展途上国では大きな課題であることを深く認識しました。ともに参加者50人前後の小さな会合でしたが、活発な討論が印象的でした。いずれも座長から当基金がこのワークショップのスポンサーであることが紹介され、謝辞が述べられております。なお、南アフリカは「生物多様性を高めるための文化の多様性」というテーマのワークショップでしたが、上記ジンバブエと同一時間帯にあつたので、残念ながら参加できませんでした。

最後に、IUCN本部による寄付者に対する感謝の会の席上、Yolanda Kakabadse IUCN 会長ならびに Achim Steiner 同理事長より、親しく当基金に対し感謝の辞が述べられたことを付記しておきます。

平成16年度助成事業報告(見込み)

平成16年度当基金の助成総額 4,900万円

I. (財) 日本自然保護協会との共同事業による公募助成	23件	2,400万円
II. (財) 世界自然保護基金ジャパンの事業助成	3件	400万円
III. (財) 日本自然保護協会の事業助成	3件	400万円
IV. 地球の友(FoE)ジャパンの事業助成	2件	200万円
V. その他の助成	6件	878万円
VI. 未定の事業助成	—	622万円

平成16年より17年にかけての助成 (内容は下記)

<u>助成内容</u>	<u>助成額</u>
I P. N. ファンド第15期(平成16年度)助成(明細次頁)	2,400万円
II (財)世界自然保護基金ジャパンへの独自事業助成	
・石垣島白保サンゴ礁における海洋環境モニタリング調査および報告書の作成	140万円
・沖縄島北部のマングースおよびノネコに関する検討会とシンポジウムの開催	130万円
・北方4島における自然保護活動支援およびリーフレットの作成	130万円
III (財)日本自然保護協会への独自事業助成	
・泡瀬干潟自然環境調査	150万円
・沖縄県・辺野古における海草藻場のモニタリング調査および普天間飛行場代替施設建設問題に係わる対処	150万円
・環宮崎平野照葉樹林における群落の現況把握調査と保全・再生への取り組み	100万円
IV 地球の友(FoE)ジャパンへの独自事業助成	
・サハリン島の自然保護・野生生物保護を目的とした調査研究と提言・啓蒙活動	70万円
・ロシア沿海地方サマルガ川流域で開始される森林開発・住民支援のモニタリングと発表、関係諸機関への提言活動と先住民NPOの活動支援	130万円
V その他の助成	
・大峰山脈のシラビソ林が受けたシカ害の現況調査 (奈良自然環境研究会)	40万円
・三宅島の噴火被害地における生態系の保護と復元に向けた植生学的基礎研究(5年継続)(2年目)(三宅島自然研究グループ)	100万円
・公開シンポジウム「有明海を科学し再生の道をさぐる」の開催(諫早湾保全生態学研究グループ)	53万円
・IUCN世界自然保護会議におけるワークショップ、円卓会議、文化イベント他(国際自然保護連合 IUCN)	435万円
・ヤンバルクイナのリハビリセンターの設置(NPO法人・どうぶつ達の病院)	200万円
・「有明海異変」のパンフレット作成・配布(有明海漁民:市民ネットワーク)	50万円
VI. 未定の事業助成	622万円

国内調査研究助成

No.	研究テーマ	助成先	代表者	助成額
1	絶滅危惧種ツシヤママネコの生息地としての森林環境の評価	ツシヤママネコ研究グループ	伊澤 雅子 (琉球大学助教授)	1,000
2	西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査	西表島浦内川流域研究会	松本 千枝子 (西表島自然史研究会 事務局長)	1,000
3	西表島溪流辺植物群落の成立要因の解明と保全に関する調査研究	西表島溪流植生調査団	星野 義延 (東京農工大学大学院 助教授)	700
4	稀少鳥類ナミエヤマガラ基礎生態研究:少ない生息数が引き起こす独特な生活史形質	ナミエヤマガラ調査隊	上田 恵介 (立教大学 教授)	900
5	屋久島におけるウミガメの個体数把握調査	NPO法人屋久島うみがめ館	大牟田 一美	1,000
6	奄美諸島固有種オットンガエルの保全生態学的研究	奄美両生類研究会	岩井 紀子 (東京大学大学院農学生命科学研究科 院生)	1,000
小計				6件 5,600

国内活動助成

1	市民調査による九折瀬洞に生息する生物の現況と川辺川ダム計画の影響調査活動	(ツゾラセ) 九折瀬洞窟調査グループ	中田 裕一 (自然観察指導員 熊本県連絡会 事務局長)	900
2	県指定天然記念物「坂戸神社の森」に関する周辺住民の啓蒙のためのパンフレット作成	「坂戸神社の森」パンフレット刊行会	平田 和弘 (千葉県生物学会 会員)	900
3	『こんなにすばらしかった、軽井沢の草原-みんなで作るレッドデータブック-』(仮題)の出版と普及	軽井沢サクラソウ会議	今城 治子	500
4	近畿地方におけるタンポポ属の在来種・外来種・雑種の分布調査	タンポポ調査・近畿2005実行委員会	布谷 知夫 (滋賀県立琵琶湖博物館 研究部長)	800
5	泡瀬干潟における自然環境マップの作成	泡瀬干潟を守る連絡会	前川 盛治 (泡瀬干潟を守る連絡会 事務局長)	800
6	国内IBA(重要鳥類生息地)パンフレット作成	(財)日本野鳥の会	古南 幸弘 (日本野鳥の会 室長)	800
7	2004国際湿地シンポジウムin敦賀ラムサール登録・未来への贈りものーその役割と展望ー	日本湿地ネットワーク	辻 淳夫 (日本湿地ネットワーク 代表)	900
8	沖縄のジュゴン保護のために確保すべき生息環境についてのヒアリング及び文献調査	北限のジュゴンを見守る会	鈴木 雅子 (北限のジュゴンを見守る会 代表)	900
9	矢倉干潟保全活動	西淀自然文化協会	山田 忍 (西淀自然文化協会 代表幹事)	600
10	特別天然記念物オオサンショウウオ生息地生物多様性調査	真庭遺産研究会	徳永 巧 (NPO法人 岡山環境カウンセラー協会理事)	700
小計				10件 7,800

国内長期事業助成

1	北上山地中・北部に残存する中間温帯性自然林の分布と特性	北上山地森林生態系研究グループ	平吹 喜彦 (宮城教育大学 教授)	1,900
2	北方四島における生態系保全と一次産業の共生に関するモデル形成～北方四島生物圏の持続可能なシステムの構築～	特定非営利活動法人 北の海の動物センター	大森司 紀之 (酪農学園大学地域環境システム学部 教授)	3,400
3	栗駒国定公園(山形県内区域)公園計画の立案	神室山系の自然を守る会	海藤 清志 (神室山系の自然を守る会 会長)	500
小計				3件 5,800

海外調査研究助成

No.	研究テーマ	助成先	代表者()内推薦者	助成額
1	野生オランウータン生息地における住民参加の森林パトロール活動と動態調査	Mr. Yan. S (インドネシア)	キャンプ・カカブ 現地責任者 【鈴木 晃 日本・インドネシア・オランウータン保護調査委員会 代表】	1,300
2	「野生のアフリカゾウと地域住民の共存から野生動物と人間の未来を考える」サイト立案	中村 千秋 (ケニア)	アフリカゾウ国際保護基金 所属 【小原 秀雄 女子栄養大学 名誉教授】	1,300
3	モウコガゼルと家畜の相互関係に関する研究ーガゼルの保護にとっての過放牧の問題点ー	Dr. Lkhagvasuren Badamjav (モンゴル)	モンゴリアカデミー生物学研究所 教授 【高槻 成紀 東京大学総合研究博物館 助教授】	1,000
4	ブータンのLamperi広葉樹林の、放棄されたワサビ田における在来種の多様性保全	Ms. Rebecca Pradhan (ブータン)	王立自然保護協会 所属 【親治 素子 江戸川大学社会学部環境デザイン学科 教授】	1,200
小計				4件 4,800
助成金総額			合計	23件 24,000

平成15年度決算ならびに平成16年度予算

当基金では平成16年5月14日に第23回理事・評議員会を開催し、平成15年度の事業報告、決算報告及び平成16年度の事業計画、収支予算案が承認されました。決算と予算は下表の通りです。

平成15年度決算ならびに平成16年度予算

(単位：千円)

項 目	平成15年度		平成16年度
	予 算	決 算	予 算
(収入の部)			
基本財産運用収入	65,000	92,188	74,000
運用財産収入等	50	1,876	50
前期繰越金	21,950	21,950	50,976
収入合計	87,000	116,014	125,026
(支出の部)			
事業費	48,000	48,735	56,500
活動助成	(12,000)	(12,090)	(12,000)
調査研究助成	(26,000)	(30,190)	(30,000)
海外調査研究助成	(8,000)	(5,710)	(8,000)
事業管理費	(2,000)	(745)	(6,500)
管理費等	18,190	16,302	47,100
次期繰越金	20,810	50,977	21,426
支出合計	87,000	116,014	125,026

「第10回プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果発表会」

- 日 時： 2004年12月11日(土) 10:10～17:00
- 場 所： 主婦会館プラザF 地下2Fクラルテ
千代田区六番町15番地 ・Tel. 03-3265-8111
- 主 催： (財)自然保護助成基金・(財)日本自然保護協会
- 参加費： 無料(どなたでもお気軽にご参加下さい)
- お申込み： 直接会場へお越し下さい。途中参加も可能です。
- 詳細はホームページ(<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~pronat/>)
をご参照下さい。



第3回IUCN世界自然保護会議
開催記念タイ国硬貨

(実物の1.8倍の大きさです)

編集後記

今年はどうしたことでしょう。度重なる台風、おまけにいつも同じ所に。又いつまでも、余震が続く地震、どう考えても、奮った人間が犯した自然・環境破壊に対して、自然があげた怒りの声としか考えられません。日本だけでなく、世界中が同じような被害に会っています。被災者の方々には心からお見舞い申し上げるとともに、そのことに対する具体的な対策もさることながら、それ以前に一人一人が心して考えなければならない問題があるのではとないかと思われまます。

毎年恒例の言葉を残念ながら今年もまた申し上げなければなりません、来年こそは良い年になりますようにと念じて止みません。

記 岡本 和子

Pro Natura ニュース 第14号

発行者：財団法人 自然保護助成基金

発行年月日：平成16年12月1日

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-25-8
松濤アネックス 2階

TEL:03-5454-1789 FAX:03-5454-2838

E-mail: pro-natura@muji.biglobe.ne.jp

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~pronat/>